

チューインガムひとつ

小学3年 村井安子

せんせい おこらんとって せんせい おこらんとってね わたしものすごくわるい
ことした わたし おみせやさんの チューインガムとってん 一年生の子とふたりで
チューインガムとってしもうてん すぐ みつかってしもうた きっと かみさんが
おばさんにしらせたんや わたし ものもいわれへん からだが おもちゃみたいに
カタカタふるえるねん わたしが一年生の子に 「とり」 いうてん 一年生の子が 「
あんたもとり」 いうたけど わたしはみつかったらいややから いややいうた
一年生の子がとった

でも わたしがわるい その子の百ばいも千ばいもわるい わるい わるい わるい
わたしがわるい おかあちゃんに みつからへんとおもったのに やっぱり すぐ み
つかった あんなこわいおかあちゃんのかお 見たことない あんなかなしそうなおか
あちゃんのかお見たことない しぬくらいたたかれて 「こんな子 うちの子とちがう
出ていき」 おかあちゃんはなきながら そないいうねん わたし ひとりで出ていっ
てん いつもいくこうえんにいったら よその国へいったみたいな気がしたよ せんせ
い どこかへ いってしまお とおもうた でも なんぼあるいても どこへもいくと
ころあらへん なんぼ かんがえても あしばかりふるえて なんにも かんがえら
れへん おそうに うちへかえって さかなみたいにおかあちゃんにあやまってん け
ど おかあちゃんは わたしの かおを見て ないてばかりいる わたしは どうして
あんなわるいことしてんやろ もう二日もたっているのに おかあちゃんは まだ さ
みしそうにないている せんせい どないしよう

(灰谷健次郎『わたしの出会った子どもたち』より)

人の心の痛みがわかる人は、この詩に立ち止まるだろう。この子の心の前に立ち止ま
らずにはいられないだろう。時は戻らない。しかし、きっとこの先、安子ちゃんはいい
人生を送ることができるに違いない。本当の悪人は、自己の行為に対してたいした罪悪
感も持たず、振り返ることもしない。君たちはどうであろうか。